

平成24年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢北陵高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 遅刻・欠席を減らし服装容儀を整えるなど基本的生活習慣の一層の確立を目指す。	① 全職員で時間厳守について指導を徹底するとともに、保護者との連絡を密にするなどして、遅刻・欠席の減少に努める。また、登校指導等により挨拶の励行を推進する。	【成果指標】 遅刻者数が1日平均 A 3人未満であった B 5人未満であった C 7人未満であった D 7人以上であった	A 4月～2月 遅刻者532人 前年712人 対前年比75% 1日平均2.9人	遅刻者は5年連続で前年を下回り、1日平均2.9人となった（前年比75%）。基本的生活習慣の確立にむけた取組が効果を出してきた。今後も遅刻・欠席をさらに減少させ、基本的生活習慣の確立に努めたい。
		【努力指標】 （生徒）自ら進んでの挨拶が A よくできている B だいたいできている C あまりできていない D ほとんどできていない	A+Bの平均＝78% 前期 後期 A 20% 21% B 58% 57% C 20% 20% D 2% 2%	A+B=78%で目標値（80%）に届かなかった。学校生活のさまざまな場面、授業開始時・終了時や職員室出入りなどでの挨拶を徹底するとともに、登校指導や教員から積極的に声をかけ、挨拶の重要性を伝えたい。
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規律・マナーの向上を目指す。	【満足度指標】 （生徒）北陵生は頭髪・服装容儀やマナーなどについて A よく守っている B だいたい守っている C あまり守っていない D ほとんど守らなかった	A+Bの平均＝92% 前期 後期 A 31% 31% B 61% 62% C 7% 6% D 1% 1%	生徒の頭髪・服装容儀に関する自己評価は昨年の83%から92%に上昇し、目標（80%）に達した。今後は、繰り返し注意を受ける生徒に対し、保護者との連携に一層留意しながら、教職員がさまざまな場面を通して指導を継続して行っていく。
	③ 生徒の行動に注意を払い、生徒の面接や保護者との連絡をより密にし、学校組織として生徒理解を深める。	【満足度指標】 （生徒）自分の行動や悩みについて先生方は A いつも注目し相談に乗ってくれた B だいたい注目し相談に乗ってくれた C あまり注目せず相談に乗ってくれなかった D ほとんど注目せず相談に乗ってくれなかった	A+Bの平均＝62% 前期 後期 A 11% 8% B 52% 52% C 28% 30% D 9% 10%	支援・助言指導に関し教職員に対する生徒の評価は、A+B=62%で目標値（80%）に達しなかった。今後さらに、生徒の言動に常に注意を払い、普段からコミュニケーションを保ち、適切な声かけを行っていく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		遅刻が減った理由として、全学年で朝学習を開始したことが考えられる。頭髪・容儀指導も良い結果となった。その中で、挨拶はまだ十分でない。教師から挨拶をすることも必要だが、生徒が心の内面から挨拶する指導もほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		遅刻者の減少の中で、特定の生徒に改善が見られない状況である。今後そうした生徒への指導の改善が必要である。挨拶指導は心の内面から行うものであり、そのレベルでの指導が大切である。また、部活動で生徒の悩みに教師は声かけや面接を行うことも大切である。就職・進学試験での容儀や面接のあるべき姿を指導基準として、日常から、1・2年次から行っていきたい。		
2 少人数授業の工夫など授業改善に努め、基礎学力を定着させるとともに、生徒一人ひとりに応じた学力の向上を図る。	① 研究授業や公開授業を積極的に行い、授業改善に努める。	【努力指標】 （教職員）授業では生徒の発言や活動を増やす授業の工夫に A 積極的に取り組んだ B ある程度満足できる取り組みができた C 積極的な取り組みはできなかった D ほとんど取り組めなかった	A+Bの平均＝77% 前期 後期 A 21% 29% B 53% 50% C 26% 21% D 0% 0%	教員にとって授業改善の取組は不可欠であり、77%の教員が生徒の学習活動を増加させる授業の工夫を行ったが、目標値（80%）は達成できなかった。D評価は0であった。次年度は積極的に授業の研究実践に取り組み、生徒の基礎学力の定着や進路目標の実現を図りたい。
	② わかる授業を行うとともに、生徒の興味・関心を引き出す授業の工夫・改善に努める。	【満足度指標】 （生徒）わかる授業や興味関心を引き出す授業の工夫が A 十分に感じられる B だいたい感じられる C あまり感じられない D ほとんど感じられない	A+Bの平均＝68% 前期 後期 A 8% 9% B 62% 57% C 23% 29% D 7% 5%	①に対応して、生徒側の受け止め状況を尋ねた。教員の授業取り組みへの工夫を感じた生徒はA+B=68%で目標値（80%）に達しなかった。工夫が生徒にはっきり伝わる一層の授業改善が必要である。なお、1年生の76%に対し、2年生が62%と低い評価であった。

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
	③授業以外の時間での学習習慣の定着を図る。	【成果指標】授業以外の平均学習が、1時間以上の生徒が、 A 70%以上である B 50%以上～70%未満である C 20%以上～50%未満である D 20%未満である	B 平均＝57% 前期 後期 1年 59% 57% 2年 42% 55% 3年 66% 66%	1時間以上学習する生徒は6割であり、学習習慣の確立はまだ不十分である。 今後は学習指導を行い、基礎学力定着を目指す取組を強化したい。
	④生徒が授業に集中し、発言等を通して授業に積極的に取り組む。	【努力指標】（生徒）授業中に意欲的に考えたり、発言するように A 積極的に取り組んでいる B ある程度取り組んでいる C あまり取り組んでいない D ほとんど取り組んでいない	A+Bの平均＝69% 前期 後期 A 18% 21% B 49% 50% C 26% 24% D 7% 5%	授業中に積極的に取り組んでいる生徒は前年度66%よりわずかに向上したが、A+B＝69%で、目標値（A+B＝80%）に達しなかった。 次年度は要請訪問・校内研修サポート・互見授業・中学校授業参観などで授業改善を図りたい。
学校関係者評価委員会の評価	生徒の学習への意欲向上への取組には様々な方法がある。今回の結果から特に2年次に課題があることがわかる。2年次の中だるみをなくす方法、目標づくりをどうするか、早いスタートのきらせ方等、各場面で考えてもらいたい。分析の手法として、意欲や学習時間で就職希望者・進学希望者で結果に違いはないのか。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	目標づくりに友達の影響も多い。進路に応じた宿題の出し方の工夫、資格検定でのモチベーションの高める工夫など、学習時間を増やす工夫に取り組みたい。 また、「総合的な学習の時間」や「産業社会と人間」を通して、学習の目的意識をさらに高めたい。			
3 組織的な進路指導により履修や進路についてのガイダンス機能を充実させ、生徒一人ひとりの進路の実現を図る。	①各学年に応じた進路学習を工夫し、主体的で継続的な学びができるように支援する。	【努力指標】（教職員）本校教育課程を理解し、生徒への助言支援が A 十分に助言・支援できる B おおむね助言・支援できる C あまり助言・支援できない D ほとんど助言・支援できない	A+Bの平均＝62% 前期 後期 A 11% 8% B 52% 52% C 28% 30% D 9% 10%	総合学科高校では教員が教育課程を理解熟知した上で、生徒の系列・科目選択を一人ひとり丁寧に指導することが必要である。 昨年度は84%だったが、A+B＝62%となり目標値に達しなかった。 教員異動者の増加に伴い数値が下がったものと見られる。全職員で適切な助言指導を行えるよう、共通理解に努めたい。
		【満足度指標】（生徒）進路行事・「産社」・「総合」の学習が A 進路を考える上で、大いに役立った B ある程度役立ったと感じる C あまり役立たなかった D まったく役立たなかった	A+Bの平均＝83% 前期 後期 A 27% 22% B 56% 61% C 15% 14% D 2% 3%	A+B＝83%で目標（80%）は達成した。 生徒の職業観や進路目標の確立について「産社」「総合」は重要な学習であり、内容・計画を精査し次年度さらに評価が高まるよう企画、進路、学年の連携をとりながら実施していく。
	②個別指導や各種資格、検定試験に対する取り組みを強化する。	【成果指標】（生徒）新たに検定や資格を取得した生徒の延べ数が A 700人以上であった B 650人以上～700人未満であった C 600人以上～650人未満であった D 600人未満であった	A 延べ数 767人 漢検 405 英検 21 工業 94 商業 247	各種検定合格者延べ数は767名でA評価であった。 検定への挑戦は学習への動機付けになるほか、進学・就職に向かう意志を強化する役割を持っており、さらに指導を充実させ合格者数を増やしていきたい。

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
	③保護者や関係機関と連携を深め、進路指導の充実を図る。	【満足度指標】（保護者）提供された情報に対して A 満足できた B ある程度満足できた C あまり満足できなかった D 満足できなかった	A+Bの平均＝90% 前期 後期 A 16% 17% B 74% 73% C 5% 9% D 5% 1%	提供された情報に対する満足度A+B＝90%で目標値（80%）に達した。昨年度（85%）より5%増加した。進路説明会や進路関係資料が評価されたものと思われる。次年度はさらに好評価を得られるよう取り組んでいく。
学校関係者評価委員会の評価	教員は努力しているが自信が持てない状況のようだ。また、五教科の教員が他教科に関して、工業や商業などの授業を説明することが苦手なようである。教員自身が他教科の授業参観等を行い、教科内容を理解することが必要である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	教員の互見授業や研究授業の回数を増やしてきたが、さらに充実させたい。進路実現のために、受験科目の学習や資格取得のための学習について三年間の長期的指導計画をつくっていく。			
4部活動の積極的な加入・活動を推進し、その活動を通して活力ある学校生活の充実を図る。	①部活動の活性化を目指し支援・運営する。	【成果指標】部活動への加入率が A 85%以上である B 80%以上～85%未満である C 75%以上～80%未満である D 75%未満である	B前期・後期の平均81% 前期 後期 文化部 36% 32% 運動部 45% 45% 同好会 2% 2%	加入率の目標値（75%）を超えた。さらに加入が多くなるよう働きかけを強めていきたい。また、加入したくなるよう活動目標を明確化するなど内容を改善していく。
		【満足度指標】（生徒）私は A ほぼ毎回部活動に参加した B 週2～3回部活動に参加した C あまりできなかった D できなかった	A+Bの平均＝86% 前期 後期 A 57% 57% B 30% 29% C 7% 7% D 6% 7%	A+B＝86%で目標値（80%）を超えた。部活動は充実した学校生活を送る上でも、進路実現に向けても重要な要素であり、新入生への加入推進指導を充実させて、さらなる活性化を図りたい。
	②地域行事・学校行事等に参加し、地域との連携を密にする。	【成果指標】地域行事やボランティアなどに一度は参加した生徒が（半期） A 200人以上 B 150人以上～200人未満 C 100人以上～150人未満 D 100人未満	A 前期 後期 287人 401人	魅力ある県立学校プラン「夢空間 もりもと」で地域貢献を実施した。いしかわ特別支援学校との交流、JRC部を中心とした地域行事への参加、竹林の利用などボランティア行事へ参加した生徒数は前期・後期ともに増えた。次年度はより計画的で発展的な活動としていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	「夢空間 もりもと」の地域貢献はたいへんよい活動である。今後もっと充実させてほしい。その際に、生徒の日常生活の視点でボランティアの機会を考えてもよい。生徒からアンケートをとり活動の種類や場面をふやすのもよい。部活動は大切であり、顧問の先生方の指導に期待したい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	地域貢献では、通学に利用するJR駅での清掃活動など、生徒目線での活動を増やす工夫をしていきたい。部活動は競技力等の向上だけでなく、規範意識向上や集団行動の訓練の場として大きな意義をもつものである。部活動の目標を明確にし、顧問の指導力向上をさらに図っていきたい。			